

# 2021年度 倫理委員会（第4回定例会）議事録

開催日：2022年2月5日（土） 13:30～17:00

場 所：WEB会議

参加者：委員19名出席、オブザーバー5名出席

議事録：西井（文責）

## 1.九州版倫理テキストにおける事例研究

今回は、「研究不正（予防倫理）」について、岩尾委員より発表があった。要旨は次の通りである。

研究には許される研究と許されない研究があり、研究者の判断が重要となる。研究不正は、複数の研究者が関与しても、プレーキをかけづらいう一面を有する。例えば、STAP細胞の事例が代表的であり、職責や命令によって行われる研究は不正の温床となる。研究者は新規性や有効性に研究の成果を求め、往々にして“一番乗り”を目指す傾向があり、ここに落とし穴が潜む。

研究不正を回避するには、業績に固守することなく、研究への適正を自己評価することが必要である。また研究ノートや野帳をきちんと整理しておくことが重要である。

## 2. 第一次試験適正科目を題材とした倫理研究ディスカッションイベント

このイベントは当委員会での初めての試みであった。要旨は次の通りである。

まず、倫理研究タスクチームにより技術士第一次試験問題の一つを取りあげ、タスクチームメンバーによる解答内容の是非についてディスカッションを行った。進め方としては、あくまで正誤を推定するものではなく、問題に対する個々人の洞察を述べ、他の委員も参加して意見交換したものである。そのプロセスでは、①メンバーが考える答え、②その根拠、③正解の開示、④解釈についての意見交換が行われた。

特に意見交換では、倫理観や哲学的視点などで議論が交わされ、正誤の背景にある倫理観について、普遍的な意見の提示が成された。今回のイベントでは、正解を探すことではなく、考え方や多様な倫理観を探ることに力点を置いた実施方針が成功の要因であり、今後も引き続いて同様のイベントを開催することになった。

## 3. タスクチームからの活動状況報告

### 3-1 活動管理タスクチーム

今までの検討成果をテキストにし、公開することを前提とする方針の中で、著作権や個人名・固有名詞の扱いなどの課題が報告された。これに対し、他組織でも検討されている人名や固有名詞の匿名扱いおよび創作風の表現方法をとることで、公衆の利益に反しない工夫が図られることも話し合われた。

### 3-2 教育啓発タスクチーム

大学・高専での倫理授業の報告を受けた。また今後の展開として、中小企業を対象とした際の講師の発掘や、協賛企業を対象とした講義の提案もあった。この中で外部講演資料の作成などの今後の展開、さらにはタスクチーム内での発表を通してのブラッシュアップも報告された。

### 3-3 倫理研究タスクチーム

今回のディスカッションイベントの試みの意図と課題が報告された。今後も委員の意見を伺いながら、より良いものとしていきたいとの抱負も述べられた。

参加した他の委員からも好評の意見が寄せられ、公共の利益や公衆の福利など似た言葉でも意味に違いがあることが発見でき、面白いイベントであったとの意見が寄せられた。

### 3-4 連携交流タスクチーム

中部本部、中国本部との交流については、来年度以降に向けて連携の方法を検討して行くことが報告された。また企業との連携については、一企業との連携では利益相反になる可能性が高いため、統括本部の指導もあることからこれを極力避け、まずは協賛会員企業への倫理支援を図ることが合意された。ただし、相手が行政機関、社団法人、学協会、大学等教育機関であれば、規約上許されることも確認された。

また雑誌への寄稿については、技術士会として受ける場合は査読が必要であることが確認された。現在これを担当する組織がないので、技術士会としての対応は困難である。

## 4. 会務報告と意見交換、その他

### 4-1 来年度の定例会

来年度以降の流れは今年度と同様に、1)事例報告の講演（輪番制）、2)ディスカッションイベント、3)タスクチーム活動報告、4)会務報告などとする。また定例会開催は、同じく4回を予定する。

2022年度第1回定例会での事例報告は、下津委員とする。

### 4-2 その他

技術者倫理教育や啓発の分野で先駆的な活動をしている外部組織や他地域本部の同等組織との連携を、積極的に図ってゆくことが確認された。

以上